

秋空に声援のこだま

市民体育祭で楽しい一日を



(障害物乗り越えて走れ)



(みんな力をあわせて、ヨイショ)



(声援を背に受けて、ゴールへ)

すきとおった秋空のもと、市民体育祭が、十月六日午前九時から、向日町競輪場で開かれました。各町から選抜された選手たちは、リレー、障害物、つなぎ、紅白入れなどの各競技種目に、熱戦を繰り上げました。その結果、鷲冠井町がわずかながらぬきんで、八年連続総合優勝をとり、中山市長から優勝旗を授与されました。また、競技のあいだも家族ぐるみで旗や扇手をもち出し、応援合戦も華やかに選手たちに声援をおくり、スポーツの秋にふさわしい楽しい一日でした。



(ザルを引っ張る手も慎重に・ザル引き競走)



(まつりのハイライト 仮装行列・狐の嫁入り)

老人の心意気盛ん

老人福祉健康まつり

約六百人が参加し競う

老人福祉健康まつりが、十月七日午後一時三十分から、向日町競輪場で開かれました。競輪場内の芝生内にたてられたテントに、各町別の楽しく遊んで下さい。と激励のことがかけられたあられまると、始まりました。

競技にさきだち、市長(助役代理)、市社会福祉協議会会長、老人クラブ会長のお入れ、こぼれないように引張りがなから、お年寄りの向をこらし競いました。審査の結果、上植野町が一位となり、市長旗が授与されました。

最後に、お年寄りみんなが、盆踊りをして、楽しい福祉健康まつりの一日を過ごされました。

隊による懐メロ演奏や保育園児の遊戯では、かわいい園児たちの花笠踊りなどに、お年寄りのみなさんは、目を細めながら見入っていました。

福祉健康まつりの呼び物のひとつ、仮装行列では、物集女町が旅行ブーム、上植野町が狐の嫁入り、鷲冠井町が托鉢僧、寺戸町北が七福神、森本町が大原女と趣向をこらし競いました。審査の結果、上植野町が一位となり、市長旗が授与されました。



(婦交さんの指導で安全な乗り方を)

右見て左見て渡ろう

交通安全教室を開く

正しい交通ルールはこどものときから、と交通安全教室が、2つの小学校と6つの保育所で開かれました。この交通安全教室は、秋の交通安全運動の一環として行われたものです。

小学校では、横断歩道の渡り方や自転車の正しい乗り方を、婦交さんの指導で学びました。まず歩道を渡るときには、よく右見て、左見て、さっさと渡りましょうと教えられたあと、グループごとにわかれ、実地に訓練を行いました。

また保育所では、婦交さんの交通安全をもじった人形劇をみたり、お遊戯をしながら、1時間半ほど交通安全の知識を勉強しました。

高額療養費を支給

国保 十月一日から実施

ことし十月一日から、国保、そのこえた部分を健康保険の「高額療養費」で負担するものです。支給制度を実施してまいります。

この制度は、国民健康保険に加入されている方で、被扶養者のうちの同一人の方が、同じ医療機関や薬局などの窓口で、同じ月で支払った健康保険による自己負担額が三万円をこえた場合、

例えは、治療費が五十万円かかったとします。そのうち七割の三十五万円が国民健康保険(市)負担分として給付され、被保険者(個人)負担額は、残りの三割の十五万円となり、それを病院診療所、薬局などへ支払ったあとで、三万円を引いた残り十二万円が高額療養費として、支給されるしくみとなっています。

高額療養費の対象は、国民健康保険の給付の対象となるものだけで、差額ベッド料(但安料)、往診の車代、歯科(入れ歯など)の差額料、看護承認が行われ

未納かけ金にご注意

国民年金 納め忘れは注意

国民年金の未納かけ金に注意下さい。

国民年金では、老齢年金を受けられるために、かけ金を納めなければならない期間(最低必要期間)がきまっています。六十歳になるまで、一か月でもこの期間にたっていないと、この老齢年金がよくなる、ということに注意して下さい。

国民年金の未納かけ金に注意下さい。国民年金では、老齢年金を受けられるために、かけ金を納めなければならない期間(最低必要期間)がきまっています。六十歳になるまで、一か月でもこの期間にたっていないと、この老齢年金がよくなる、ということに注意して下さい。

街路灯の破損

公費課へ連絡を

みなさんのお近くの街路灯が消えていたり、破損しているのを見つけたときは、その電柱についている識別番号(例えば、A-1-1号のように)を、お知らせ下さい。至急修理します。連絡先は公費課・電話 九三一一一一番

第5回ちびっ子大会

「ちびっ子大会」を催します。ご家族おそろいでお越し下さい。

【とき】11月17日(日) 午後12時30分

【ところ】市民会館ホール
【出演】市内子ども会人形劇チーム 人形劇団京芸
【入場】無料
【主催】教育委員会



税金は住民福祉の源です

～行政サービスと税金～

納税者は、税金の高い安いについてよく議論するものですが、その場合は、自分のふところや、何を考へて、税額そのものをいっている場合が大部分のようです。

しかし、税金の高い安い、税金の増進に役立っているなら、非常に安い税金といえましょう。

要は、最少の経費で最大の効果といたすことです。

納税者のみなさんは、「ただ税金を払えばいい」というふうなことではいけません。常に目を開いて、自分たちの払った税金がどれだけの市民全体の福祉増進のために役立っているかをみつけ、その行方をつきとめる心構えが必要です。

それとともに、いっそう重要なことは、「少ない負担で少しでも多くの行政サービス」が実現できるように、市民のみなさんが積極的に、市政に協力することが望まれます。この協力が得られないかぎり、行政水準の向上も将来の住民福祉の増進もひいては市勢の発展も得られないものであります。ここに市民政治の真の地方自治の一面があるわけですから、税金もこれと同じこと

(税務シリーズ⑧)

それが用事を早く済ませることができ、東京の滞りも旅費に払う宿泊代も少なくてすんだら、少ない費用で用事がすまされたことにより、たいへん得な旅行をしたことになり、税金もこれと同じこと